

# 白磁德利・古代鮭漁遺跡・鮭恵比須

駆け足でしたが新潟に調査に行ってきました。目的は、昨年春、石狩川河口に流れ着いた德利※1(写真①)の調査と新潟の古代鮭漁遺跡や珍しい鮭恵比須様の図を見るためです。

まず、越後産焼酎徳利の産地である、新潟市西区にある松郷屋の窯跡や、巻郷土資料館で德利を調べました(写真②)が、石狩川河口に流れ着いた德利と同じものはありませんでした。徳利に詳しい人によると越後産焼酎德利ではなく、高級品の白磁の德利ではないかということ

です。しかし白磁の本場、佐賀県の研究者は口クロ跡がはつきりしているので18〜19世紀で佐賀県以外の窯の製品の可能性が高いのではないかと思います。

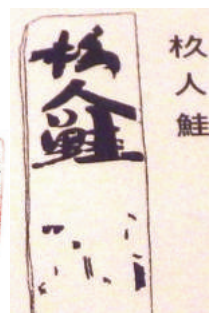
新潟市歴史博物館で古代鮭漁遺跡の場遺跡の展示を見ました。遺跡は8〜10世紀で、木簡※2や建物跡、土鍾※3、漁網の鍾が多数出土しています。木簡には「枚

(杉)人鮭(杉人という人が獲った鮭、写真③)、「を(魚)尔へ」《朝廷へ納める魚(鮭)》などと書かれています。朝廷へ税として納める鮭の加工が行われ、干し鮭、イクラ、メフィンなどが作られていたと考えられます(写真④)。

最後に本州の鮭の街、村上市では江戸時代の鮭の人工産卵場「種川」の跡や、鯛ではなく大きなオスの鮭を抱えた「鮭恵比須」を見ることのできました(写真⑤)。

(学芸協力員 石橋孝夫)

※1 いしかり博物誌156「弁財船が運んだ德利」  
(広報いしかり平成30年7月号 参照)  
※2 墨で文字が書かれた木片のこと



写真③ 「鮭」の字のある木簡の図



写真⑤ 鮭恵比須の図像  
(西奈彌羽黒神社蔵)



写真④ 鮭漁遺跡のジオラマ  
(新潟市歴史博物館)



石狩市学芸協力員  
石橋孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。